群私幼

No. 166

2014年（平成26年）3月26日発行

群馬県私立幼稚園協会

発行人　原　徳明
編集人　髙月広喜

群私幼事務局／〒371-0854　前橋市大渡町1-10-7
群馬県公社総合ビル6F 私学センター内
TEL.027-280-6206
FAX.027-280-6208
URL・http://www.gunshiyou.jp/

お別れ会「１年生になってもがんばってね」

ニューリーダー　保育勉強会

２月11日に、大妻女子大学教授の柴崎先生をお招きして、「幼稚園における行事のあり方」について勉強会を開催しました。

今回の勉強会は、「園の行事はこうあるべきだ」という結論を出すものではなく、参加者一人一人が自ら気付き、新たな発見や再認識することを目的に、園行事のメリットについて、そしてその園行事が子ども達の発達にどう寄与しているのかを、ワークショップの形態で意見交換しました。

柴崎先生にもグループ参加していただき、ワールドカフェ方式で行った今回の勉強会は、参加者が自ら積極的に参加して、グループ内の相互作用の中で双方向的に学び合うことが出来た大変有意義なものとなりました。

（のびのび幼稚園長　須田征洋）

CONTENTS

❷ 特集　群私幼Ｐ連創立50周年
　　群私幼協会創立65周年
　＊記念式典（1/23）
　＊記念講演
❸ 教職員冬季研修大会（1/23）
　＊研修Ⅰ　講演
　＊研修Ⅱ　講演
❹ 地区別研究委員会
　＊中部地区研究委員会
　＊西部地区研究委員会
　＊東部地区研究委員会
❺ ほほえみインタビュー
　＊ひばり幼稚園
幼稚園訪問記
　＊新明幼稚園
❻ 連載「フロムぐんまちゃん」
幼児教育センターの保育相談 Q&A
❼ たより
研修だより
　＊群私幼研究委員研修会（12/25）
　＊新採研（後期Ⅱ）（1/16）
　＊群私幼認定こども園研修会（1/28）
❽ 　＊臨時総会並びに第二次設置者園長研修会（2/25）
お年玉クイズの正解
編集後記

心温まる祝辞を述べられた大澤正明知事

群馬県私立幼稚園ＰＴＡ連合会 創立50周年
社団法人群馬県私立幼稚園協会 創立65周年
記念式典・記念講演

と　き　　平成26年　1月23日（木）
ところ　　伊勢崎市文化会館　　大ホール

記念式典

子どもの未来のため
力強い言葉で決意する原会長

群馬県私立幼稚園ＰＴＡ連合会創立50周年並びに社団法人群馬県私立幼稚園協会創立65周年記念式典が、群馬県知事大澤正明様をはじめご来賓、教職員及び保護者など千名を越える方々の参加のもと盛大に開催されました。

開会、国歌斉唱の後、原徳明群私幼協会長より、子ども達の明るい未来のためにも、子ども子育て支援新制度実施目前の困難なこの時期を、群私幼各園が力強く歩まんとする決意を込めた挨拶がありました。次に関真木子ＰＴＡ連合会長より、保護者からみた私立幼稚園の環境や教職員の素晴らしさについてご挨拶をいただきました。

続いて、ご来賓のご祝辞として、大澤知事様からは、県私立幼稚園教育への賛美と期待の言葉を頂戴しました。県議会議長久保田順一郎様は、私立幼稚園への一層のご支援をお約束下さいました。

来賓紹介、祝電披露の後、最後に吉井玲佳ＰＴＡ連合会理事より大会決議が発表されました。決議案は、日本のすべての幼児が質の高い幼児教育を受けられるよう「幼児教育の無償化」の実現を求めるものであり、満場一致でこれが決議された後、閉会となりました。（熊田／記）

私立幼稚園のすばらしさについて
挨拶する関ＰＴＡ連合会長

記念講演コンサート

「歌のお姉さんとして、母として」を聴いて

記念講演コンサートとして、神崎ゆう子さんが来てくださいました。まさに、自分の世代の歌のお姉さんです。

「ゆうこおねえさん！」と呼ぶと本物のゆう子お姉さんが登場しました。本物を見ることができて、感激しました。歌声がとてもきれいで心地良かったです。知っている曲は自分も一緒に歌うことができ、楽しい時間でした。

お話の中では、ＮＨＫ「おかあさんといっしょ」のオーディションの話、現場の事など興味深いものをたくさん聴く事ができました。子育てについてのお話も、楽しく子育てをしていたのだなということが伝わってきました。

たくさんの童謡を聴き、いろいろなお話を聴くことができ、本当に貴重な体験をすることができました。子ども達と、いろいろな歌を一緒に歌うことの大切さを今回改めて感じることができました。今後の保育にも、今回の講演で感じた事、学んだ事を生かしていきたいと思います。（北原／記）

歌唱を混じえながら講演された神崎ゆう子先生

群私幼教職員冬季研修大会

65 周年記念式典と同日午後より同会場にて

★研修Ⅰ　講　演
「遊びの探求」
～大人は子どもの遊びにどうかかわりうるか～
講　師　小川　博久先生（東京学芸大学名誉教授）

★研修Ⅱ　講　演
「食のとっても大切なお話」
講　師　根本　悦子先生（クッキングスクールネモト主宰）

全日私幼連永年勤続表彰伝達式の様子

研修Ⅰ　講演

「遊びの探求」～大人は子どもの遊びにどうかかわりうるか～を聴いて

東京学芸大学名誉教授の小川博久先生のお話でした。頷き合いがコミュニケーションの大前提であり、人と人が交わる最も大事なベースとなることや、応答的なコミュニケーションは、気持ちを共有する基礎となることなど、普段、私達が何気なくしている仕草には大切な意味があることを改めて学びました。また、子ども達全体に目を配る事の大切さと難しさがある中で、「あなたは、どの子にとっても太陽みたいなもの。あなたの光をどの子にも与えられるように、あなたの場所をいつでも考えてもらいたい。」という言葉は強く心に響きました。また、「園では、先生が最も大事な遊びのモデルであり、先生は最大の観客」というお話では、先生が夢中になって遊ぶ姿を見せること、そして、モデルになりながら観客になることの大切さを感じました。また、応答的な関係になると自然と身体が響き合い、それが仲間形成の基礎になることを知り、私も手遊びなどを上手に活用してみようと思いました。大人のまなざし・モデル・響き合う身体が「子どもがよく遊ぶ条件」であることを常に意識しながら、これからの保育に臨みたいと思います。

（木部／記）

子どもの遊びとの関わりについて話された小川博久先生

研修Ⅱ　講演

「食のとっても大切なお話」を聴いて

この講演では、講師としてクッキングスクールネモトの根本悦子先生を迎えて、食の大切な話を学びました。

まず、日本の食の変化と生活習慣病についてお話いただきました。平成８年までは成人病といったが、昨日・今日で起こるものではないということで、生活習慣病に変わったこと、死亡原因の第１位はその生活習慣病であることも学びました。何より、食生活が変わったことが原因のひとつで、砂糖・油・添加物の摂取においては考えていかなければならないとのことでした。平均寿命は延びているが、健康寿命は縮んでいることにも驚かされました。

また、朝食を摂る重要性、日本人は腸が長いので、便秘にならないようにするためには1日20グラムの食物繊維が必要になることも学びました。他にも、食事中には水分を取ってはいけないこと、よく噛んでよだれが出ることで消化酵素が働くことなども改めて知ることができました。最後に5節句の重要性、食材の組み合わせの意味についても学び、食生活を考えさせられる研修となりました。

（近藤／記）

食の大切さを説かれた根本悦子先生

参加者で会場が埋め尽くされた記念式典と冬季研修

地区別研究委員会
～一年の活動を振り返って～

●中部地区研究委員会
二子山幼稚園　新保尚夫

中部地区では今年度３回の研究委員研修会を実施いたしました。

第１回目は写真を使って「今の遊び」について話し合いました。砂場遊びや泥団子作りなど、幼児たちの輝く笑顔が印象的な写真がたくさん寄せられました。

第２回目も写真を使い、「今の片付け」について話し合いました。片付ける時の声掛けや、片付ける場所を幼児に分かりやすく表示するなど幼稚園や保育者による独自の工夫の仕方を学び合うことが出来ました。

第３回目は「今の手遊び・伝承遊び」について実践し合いました。参加した先生方全員から一つずつ手遊びを紹介していただき、既成の手遊びの本に負けないぐらいの内容の資料集・楽譜集が出来上がりました。

今年度は３回の研修会とも「保育の今」というテーマでくくり、それぞれの会で現場の先生方の意見を取り入れ、現場ですぐに役立つような内容の研修会にしようと常任委員で話し合ったことが生かせた研修会になったと思います。来年度は今年度の研修会を参考にして、講師の先生を呼び、現場の先生方が本当に必要としていることを見極めながら身になる研修会にしたいと思います。

一人ずつ手遊びを紹介し、オリジナルの資料が作られた

●西部地区研究委員会
みどり幼稚園　丸山秀美

今年度の西部地区では、昨年度に引き続き「保育の資質向上」をテーマに高崎健康福祉大学附属幼稚園をお借りして、３回の研究委員会を開催しました。

第１回では育英短期大学より佐塚公代先生をお招きし基調講演「児童文化の紹介」を題材に、手遊びや手袋人形、紙芝居といった児童文化財を実際に見せていただき、貴重で充実した時間を過ごすことができました。

第２回では、日本子どもの本研究会理事の代田先生をお招きし、「絵本の読み聞かせ」を題材に基調講演をしていただきました。講演を聞く中で子ども達が豊かなことばと出会い、コミュニケーション能力を育んでいくためのひとつとして絵本がとても重要であるということを再確認することができました。

第３回では、太田第二ひかり幼稚園長枝井秀栄先生をお招きし、「手作りおもちゃ」の実技研修を行いました。新聞紙や牛乳パックといった身近にある廃材等を使って駒や弓矢など様々なおもちゃを実際に作り遊んでみながら、子どもの目線に立ったおもちゃ作りを教えていただきました。

研修を通し、日々の保育を見直し、資質を高める素晴らしい機会となりました。

児童文化について講演した佐塚先生

●東部地区研究委員会
すみよし幼稚園長　柳澤静江

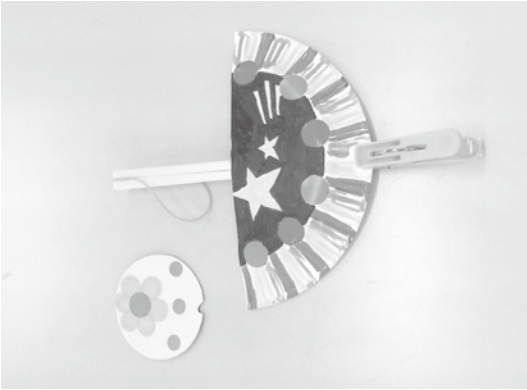
東部地区では今年度、３回の研究委員会を開催しました。

第１回では、足利短期大学教授の丸山政敏先生による「幼児運動指針に基づく幼稚園の運動遊び」の実技研修を行い、音楽に合わせて楽しく踊ったり、狭いスペースでも十分にできる運動遊びを教えていただいたりし、すぐにでも保育に取り入れ、群馬県の子ども達の体力向上に努めていきたいと思いました。

第２回では「落ち着きのある集団行動が育つためには」と「心配性な保護者に対してどのような対応をするとよいか」の２つのテーマについて事例を持ち寄りグループで話し合いを行いました。現場に立つ先生方同士の悩みや苦労、工夫している点などとても参考になり有意義な話し合いとなりました。

第３回では、廃材を使った遊べる作品を持ち寄り発表しました。自分でできる物、親子で作る物など様々あり、貴重な情報やアイデアを各園へ持ち帰ることができました。

各研究委員が資料や作品を持ち寄ったことで、良い刺激を頂く事ができました。来年度も実りある研究委員会となるよう努めて参りたいと思います。


身近な材料を使って製作したおもちゃ

ほほえみインタビュー（39）

ひばり幼稚園　教諭　平形　恵子

①幼稚園の先生になった理由は？

高校生の時、看護師体験があり、小児科を担当させていただきました。そこで過ごした子ども達との時間が楽しく、お世話をするという感覚でいたのに、こちらがパワーをもらったように感じ、子どもと接する仕事をしたいと思いました。

②忘れられないエピソード

以前、年長の男の子がアヤトリを使ってマジックを見せてくれました。「どうなってたかわかる？」と聞かれ、気付いていましたが「わからないなぁ…」と答えると「だから先生は詰めが甘いんだよな。」と指導されてしまい、思わず笑ってしまったことがありました。

③自園の一言PR（プチ自慢）

園の近くに新幹線が通っています。普段のお散歩で見に行ったり、バスが新幹線の上の陸橋を通り、下の新幹線と立体交差した時は子ども達も大興奮です。そして1番の楽しみは、お泊り保育の夜。次々と暗闇の中を高速で過ぎ去る新幹線の窓からの明かりに感動です！

④休日の過ごし方

休日は友達とご飯を食べに行ったり、お出かけをすることが多いです。また、運転も好きなので、ちょっと遠出をして、行き当たりばったりの旅をするのも好きです。

⑤教諭として心がけていること

子ども達は先生の動きを本当によくみているなぁと驚かされます。私も小さい時は先生の真似をよくしていたので、子ども達のお手本となるよう行動しています。また、経験年数が増えても「慣れる」ということはなく、日々勉強で子ども達の気持ちに寄り添えるように心がけています。

⑥今、気に入っていておすすめなもの？

御存知の方もいらっしゃると思いますが、ストレッチポールでストレッチをしています。ゴロゴロしているだけですが、リラックスでき、「明日も頑張ろう！！」と気持ちもリセットされます。

幼稚園訪問記 シリーズ（89）

KINDERGARTEN

新明幼稚園の巻（太田市）

子ども達を包み込むような園舎と温かみのある遊具

1月下旬、太田市由良町にある「新明幼稚園」を訪れました。子ども達の元気な声と共に、楽しそうな音楽が聞こえてきました。これから朝の体操のようです。お当番さんが前に出て、張り切って体操を始めました。子ども達を包み込むように建てられた可愛らしい園舎と、遊びやすいように配置された遊具は、とても温かみがあり、まるで新明幼稚園の先生方そのもののようです。

「園児の数は少ないけれど、和気あいあいとした雰囲気の中で、のびのびと心と身体を育んでいける環境を大切にしています。」と自信を持ってお話して下さった劔持由美子園長先生。保護者の方のお話では、園長先生の優しさと、ひとりひとりを大切にして下さる姿、そして先生方の温かさに魅了されて入園を決める方が多いとの事です。また、未就園児のミッキークラブの時から縦割りでのかかわりを持つことができ、親子共に学年を超えて仲良しになれるそうです。園長先生が保護者との関係で心掛けているのは「園の垣根を低くして、思いの伝え合いができるように、そして、保護者の言葉に耳を傾けるようにしている」ということでした。行事の時には保護者が積極的に参加して、先生方と協力しながら進める姿が見られるそうで、園長先生の姿勢や思いが、しっかりと保護者に伝わっているようです。

毎朝の集会で先生達と体操する子ども達

訪問時も、園庭では年齢に関係なく楽しそうに混ざり合って遊ぶ姿が見られましたが、3学期になると、園全体を3つに分けて縦割りのクラスで過ごす「ファミリー保育」を行い、いろいろな友達や先生とのかかわりを楽しみながら、2月に行われる「お店屋さんごっこ」に向けた活動をするそうです。

また、他にも体操教室、英語教室、リトミック教育、さらに6月半ば～8月には、園内をはだしで歩行することで土踏まずを刺激し敏捷性を引き出す「はだし保育」も行っているそうです。

訪問した日は「かるた会」で、学年毎にそれぞれの保育室で行われていました。年長さんはまさに真剣勝負、年中さんは和やかに、年少さんでは思ったように取れなくて泣いてしまう子など様々でしたが、先生の声に真剣に耳を傾けている姿は、とても微笑ましいものでした。

ひとりひとりが大切にされ、いつも先生方に見守られている安心感があるからこそ、新明幼稚園の子ども達は、落ち着いて、のびのびと、自信を持って園生活を楽しむことができるのだと感じました。お忙しい中、温かく迎えて下さった先生方、本当にありがとうございました。（河上・茂木・木部／記）

カルタ大会。年少児も素早く取っています

県からのタイムリーな話題

「アレルギー疾患」を有する子どもに対する対応について

一昔前に比べ、アレルギー疾患を有する子どもが増えていると、多くの園でうかがいます。食物アレルギーをはじめとし、気管支ぜん息、アトピー性の皮膚炎等、アレルギー症状は多様ですので、対応方法については各園苦慮されていると思います。園でアレルギー対応が必要になった場合は、園の独自判断によるのではなく、基本的には、医師等の専門的知識を有する方の判断に基づいた対応をお願いします。

例えば、食物アレルギーを有する子どもの場合、医師の診断に基づかない、保護者からの申し出のみにより対応した結果、成長に必要な栄養素が不足し、子どもの健全な成長が損なわれる可能性もありますので、ご注意ください。

アレルギーを有する子どもへの対応は、医師の判断に従い行ってください と申しましたが、その際に活用いただきたいのが、「生活管理指導表」です。（※県教育委員会作成）これは園が作成する様式ではなく、保護者を通じ、医師により作成していただく様式となります。

～「生活管理指導表」活用の流れ～

①園から保護者に対し生活管理指導表を配布

②保護者が医師に対し、家庭・園でのアレルギーへの対応方法について記載を依頼

③園は医師の診断により作成された指導表に基づき、日々の対応をする

また、疾患によっては、運動後や食物摂取後に、疾患が急速に進行する場合もありますので、教職員全員でアレルギーを有する子どもに対する共通理解を深め、日常から「もしも…」に備えた体制づくりをしておくことが大切となります。

「アレルギー疾患用学校生活管理指導表」につきましては、群馬県ホームページからダウンロードし、ご活用ください。

（http://www.pref.gunma.jp/03/x5000050.html）

●フロムぐんまちゃん●

幼児教育センターの保育相談Q&A

連載 14

群馬県総合教育センター
幼児教育センター長
都丸　千寿子

Q 1年が終わり、また新しい年度を迎えます。毎年気持ちを新たにスタートしますが、新入園児を迎えるとき、在園児を引き継ぐとき、どのように配慮するとよいのでしょうか。

A 「どんな子かな？」と先生もドキドキワクワクして新年度を迎えますが、子どもや保護者も「どんな先生かな？」と思っていることでしょう。新入園となれば、知らない場所で知らない人と過ごすわけですから、親子共に不安な気持ちが大きいのは当たり前です。

新入園児を迎えるときも、在園児を引き継ぐときも、子どもや保護者が安心して園生活を送ることができるよう、次のようなことに配慮しましょう。

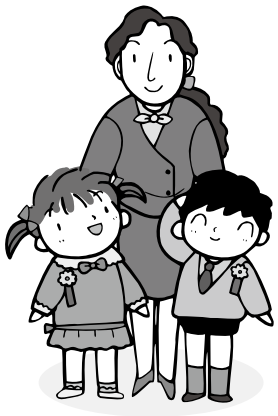
○一番大切なのは、先生の温かい雰囲気です。

先生が頼りにされる存在になるよう、常に子どもや保護者の思いを受け止めましょう。また、登園時の迎え方は重要で、笑顔とスキンシップはとても大切です。しかし個々に喜ぶ程度は違います。一人一人がどの位の受け止め方で安定感をもって一日をスタートすることができるのかを触れあう中で観察しましょう。そして、どの子とも心と心が通じ合う時間を一日のどこかでもち、「先生大好き」と子ども達が思えるようにしましょう。

○保護者や前担任などからの情報も活用し、新年度の準備をしましょう。

既往症やアレルギー等はしっかりチェックして園の先生方全員で対応等について確認をしておきましょう。

また、子どもの性格や好きな遊び等を聞き、接し方や環境構成のヒントにしましょう。生活習慣については家庭での過ごし方が園生活に影響を与えます。家庭内や前年度の様子等をよく聞き、その年度に身に付けさせたいことと具体的な手立てを明確にしておくと役に立つと思います。



たより

平成25年度全日本私立幼稚園連合会永年勤続表彰

50年以上 園長
白ばら幼稚園　中村　明先生

30年以上 園長
第二ひかり幼稚園　枝井　秀栄先生

さわらび幼稚園　松田　攻先生

20年以上 園長
桐生大学附属幼稚園　関崎　悦子先生

40年以上 教職員
ひかり幼稚園　中山　珠衣先生

第二ひかり幼稚園　堂前　静枝先生

30年以上 教職員
ひかり幼稚園　齋藤　啓子先生

第二ひかり幼稚園　広瀬　美代子先生

ひかり幼稚園　新井　敏子先生

第二ひかり幼稚園　中澤　千恵子先生

20年以上 教職員
白ばら幼稚園　宮原　由美子先生

白ばら幼稚園　金子　尚美先生

駒寄幼稚園　笠原　美恵先生

石井幼稚園　船津　敏美先生

明徳幼稚園　若松　ひろみ先生

東横野幼稚園　小板橋　優子先生

桐生大学附属幼稚園　川口　美香先生

慈教幼稚園　山田　景子先生

おめでとうございます。

研修だより

群私幼研究委員研修会

大利根南幼稚園　定形教子

今回の研修は、5領域の中の「表現」を幅広く捉え、技術的な発達ではなく、遊びの要素を含み、表現活動をどう展開していくかを考えるという内容で、育英短期大学の渡辺先生からは[描く]、淑徳大学の槇先生からは[作る]、という表現方法について、実技とともに講義があり、「子どもは造形活動が好きであるが、その中には子ども達が発信する思いがある」ということを教えていただきました。語彙も少なく、言葉での表現方法がまだ完全でない幼児には、造形活動が大切な伝達手段のひとつなのかもしれません。子ども達が自主的に、そして楽しく造形活動に取り組めるよう配慮すると同時に、保育者は、その中にある思いを探り、受けとめていかなければならないと感じました。また、研究部長の柳先生より、「心を動かす出来事は心の中に入り込み、それらに対する思いは何らかの形で発信してくるが、今の子ども達は、思わず身体が動いてしまうような経験をすることが減ってきているのではないだろうか」というお話があり、印象に残っています。今後、保育の中で、子どもの心に響くような経験や活動とはなにかを考えていきたいと思います。

グループごとにテーマを決め、造形に取り組む参加者

「新規採用教員研修後期Ⅱに参加して」

清和第二幼稚園　岩﨑紗也

1月16日に行われた新規採用教員研修では、幼稚園と小学校の連携、幼児虐待について講義していただきました。特に、幼稚園教育と小学校教育の連携については、幼稚園教諭としての視点から新たに学ぶことが多くありました。年長後期の教育から小学1年生の教育へ接続が重要であることはもちろんですが、幼稚園での年少から年中、年中から年長への接続も子ども達が一つ上の学年に上がるためには重要な時期であるので、私自身も今やるべきこと、今子ども達にしてあげられることに責任を持って、日々の保育を行っていきたいと思いました。また、幼児虐待については普段から特別意識しているわけではなかったのですが、子ども達の安全を守るという上で、心に留めておくべき問題であると思いました。子ども達の心身の状態を把握することは、保育の中でも大切なことなので、怪我などの状況は具体的に押さえていけるように、より気を配っていけるようにしていきたいと思いました。研修で指導して頂いたことを生かし、より質の高い保育者になれるよう精進していきたいです。

「認定こども園研修会に参加して」

たから幼稚園　芝﨑法承

1月28日群馬県公社総合ビルにおきまして、認定こども園研修会が行なわれ参加させていただきました。県職員の方々にもお越しいただき、認定こども園の申請手続きや新制度におけるこども園の説明をいただきました。その後、質疑応答の時間が設けられ調理室の問題、長期休業、開所時間、管理運営等の質問が挙げられていました。

パネルディスカッションでは現在認定こども園（幼稚園型・幼保連携型）代表園にパネリストとなっていただき認定こども園になられた経緯や現状を各園の資料と共に詳しく説明していただきました。

最後は4ブロックに別れてグループ討議が行なわれました。今後幼稚園として残っていくのか幼稚園型になっていくのか幼保連携型になっていくのかという選択が迫られている中で、参考になる各園の貴重なご意見や悩みなどがパネリストの先生方を中心に話し合われました。

刻々と時は過ぎ、あと数ヵ月で公定価格の決定、選択肢を一つに絞り準備、新たな要項の作成、在園中の保護者や入園希望の皆さんにお知らせ等々、手さぐり状態なのにやる事は山ほど…忙しい日々になりそうです。

各類型に別れて行われたグループ討議

臨時総会並びに第二次設置者園長研修会

開会式の様子。挨拶をする原徳明群私幼協会長

第二次設置者園長研修がまだ大雪の影響のある中開催されました。

開会式では原徳明会長、群馬県学事法制課課長中村弘子様より挨拶を頂きました。群馬県私立幼稚園協会臨時総会として、平成26年度の事業計画、予算が審議され来年度の幼稚園協会の活動の計画が審議されました。

また、平成26年度から一般社団法人に移行するにあたっての「総会運営規則」についても審議され、各議案ともに可決承認されました。

休憩後、白梅学園大学教授の無藤隆先生による『「認定こども園保育要領」について・その方向性』をテーマに講演を頂戴いたしました、来る平成27年度の幼児教育制度の大きな改革について、最新の情報と保育要領の制定を巡る、私達幼児教育に携わる者にとって、一番の関心事である、子どもとの関わりについてもご講演頂き、真剣な研修となりました。

制度がどのように変わっても、幼児教育を預かる私たちと子ども達の関係とその思いと責任はなんら変わることなく、今までの信念を貫き、子どもの幸福のために邁進するべきである。制度に左右されない教育者たるべきと話されました。

平成27年度以降の子ども子育て新制度については各園とも最大の関心事であり、その後の園運営を左右する問題でもあり、参加者からは教育者としての子どもへの志と、経営者としての責任を改めて認識し、幼稚園協会には、更なる情報提供と研修を要望する声が多く聞かれました。

（田代／記）

私立幼稚園の振興について話された中村弘子学事法制課長

最新の情報と認定こども園について語った無藤隆先生

2014年 お年玉クイズの正解

㋐ 言＋木＋且＋周＝調査
㋑ 女＋平＋子＋言＝好評
㋒ 自＋可＋欠＋田＋サ＋可＝鼻歌
㋓ 走＋又＋口＋耳＋未＝趣味

［賞品］
お年玉クイズでは多数の応募をいただき、ありがとうございました。４問全て正解の方から厳正な抽選を行いました結果、5,000円図書カードを３名様、1,000円図書カードを５名様にプレゼントしました。
なお当選された方には、２月25日開催の第二次設置者園長研修会の折に、園長先生に賞品をお渡ししましたので、園の方でお受け取り下さい。　広報編集協力委員一同

おくやみ

◇平成26年1月16日

□学校法人　斉藤学園　桃瀬幼稚園
理事長　斉藤　安太郎 先生（76歳）

心からご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

2月の2週続けての大雪は県内においても各地で大きなダメージを受けました。特に14日は120年ぶりの記録的な豪雪に見舞われ、建物の損壊や交通の麻痺、学校や幼稚園については休校（園）になったところも多くありました。

慣れない雪掻きは、掻いても掻いても、どうにもならないほどの雪の量で、体の痛みと闘いながらの毎日でありました。

雪国で生活する方々にとって、このようなことが幾度も繰り返され、雪での大変さやご苦労を痛感いたしました。

今後も雪に限らず災害に対する認識をより一層深め、万が一に備えた措置と訓練等の実施や、非常時に対応できる態勢を日頃から心掛けていなければいけないと改めて思い知らされました。

（髙月／記）

■次号167号は、平成26年6月11日(水)に発行予定です。